

## Abstract

米国のアジア太平洋リバランス政策と米韓同盟—21世紀「戦略同盟」の三つの課題

阪田 恭代（神田外語大学教授）

米国のアジア太平洋リバランス政策の中で米韓同盟は新たなチャレンジに直面している。ポスト9.11テロの米同盟変革に応える形で21世紀「戦略同盟」として再定義され、朝鮮半島のみならず地域ならびにグローバルなレベルで戦略的協力を進める同盟として再定義された。しかし、現在、アジア太平洋「リバランス」という新たな戦略環境の中で「戦略同盟」としての役割が問い直されている。その関連で、本稿では、三つの課題—対北朝鮮抑止・防衛、対中ヘッジ・海洋安全保障、日米韓安全保障協力—に焦点を当て、米韓同盟の現況について分析した。その結果、米国のリバランス政策における米韓同盟の戦略的価値はむしろ高まり、三つの課題への対応を慎重に進めながら、21世紀「戦略同盟」としての同盟のあり方が模索されはじめている姿がみえてきた。

『国際安全保障』第44巻1号（2016年6月号）49—63ページ。